

平成27年度飛び入学に関する
自己点検・評価報告書

平成27年8月

日本体育大学 体育学部

Nippon Sport Science University
Faculty of Sport Science

平成 27 年度飛び入学入試に関する自己点検・評価報告書

自己点検・評価の状況について

飛び入学に関する自己点検・評価の実施状況（実施時期、実施体制、評価結果の概要、評価結果の公表方法等）について記入してください。

実施時期：平成 27 年 5 月～平成 27 年 8 月

実施体制：アドミッションセンターにおいて実施し、アドミッションセンター運営委員会の意見を聞き、とりまとめた。

評価結果の概要：評価項目は全体評価、広報について、選考方法について、受入体制について

評価結果の公表方法：体育学部教授会にて報告するとともに報告書の編纂を予定している。

1 飛び入学の導入経緯及び趣旨等について

1 - 1 飛び入学を導入する経緯

日本体育大学は、建学の精神に基づき社会的使命・目標を実現するべく掲げた「大学改革構想」の柱の一つとして、平成 24 年度入試以降、入試制度改革に取り組んできた。それにより様々な基準の入試制度を導入することで優秀で多様な学生を獲得し、社会に貢献できる人材養成の拡充を目指してきた。

体育学部の新しい入試制度は、より学力の高い学生獲得のために学力重視の一般入試後期、推薦入試（一般推薦）、地方スポーツ振興の担い手を養成するための地域ブロック AO 入試、スポーツを通じた国際的な活躍を期待できる人材を受け入れる外国人留学生入試、社会人アスリートのセカンドキャリアを支援するためのリカレント入試を順次導入した。

そして、優れた資質を有するアスリートを早期に受け入れて更にその能力を伸長させるための飛び入学入試を平成 26 年度入試から導入した。

1 - 2 飛び入学を実施する趣旨

日本体育大学は、本学が展開する体育及びスポーツ科学に関する分野において、学術と実務を教授研究し、国際的視野をもった教養高い人間を育成するとともに、広く人類の健康の増進及び福祉の充実と、スポーツ文化の向上及び体育の発展に貢献してきており、更に本学が社会的貢献を図るために、本学の目的を理解し実践しようとする 18 歳に満たない者であっても高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者を含む）を対象に飛び入学入試に出願する資格を与えるものとする。

1 - 3 飛び入学をする学生に求める資質

体育及びスポーツ科学の分野の世界的な競技大会（オリンピック及びこれに準ずる国際大会）において上位入賞の経験等を有すること。

1 - 4 飛び入学を実施する有効性

体育及びスポーツ科学の分野の優れた資質を有するアスリートを早期に受け入れて、本学の学術と実務を教授研究することで更にその能力を伸長させて世界的な競技大会（オリンピック及びこれに準ずる国際大会）において上位入賞等の活躍を積み重ねる。これにより本学が掲げる社会的使命にある我が国のスポーツ文化の深化・発展に努めるとともに、オリンピック・ムーブメントを主導的に推進し、スポーツの「力」を基軸に、国際平和の実現に寄与することに繋がるものである。

特に、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定を受けて、本学関係の出場者数目標を 70 名に設定したことから、1 人でも多くの優れた資質を有するアスリートの早期入学生を受入れて指導を充実することで、同大会においてより高い成果が期待できる。

2 広報活動について

2 - 1 飛び入学入試の実施決定と届出手続

<平成27年度入試>

実施決定：平成26年4月1日（火）、全学教授会

募集分野：体育及びスポーツ分野

学部学科：体育学部全学科（体育学科、健康学科、武道学科、社会体育学科）

募集人員：体育学部全体で若干名

実施計画報告書提出：平成26年9月2日（火）

募集要項提出：平成26年9月2日（火）

2 - 2 飛び入学入試の広報活動

募集公表開始：平成26年9月中旬、本学ホームページに平成26年度入試より「飛び入学入試」の概要を掲出して実施を案内すると共に、随時問合せを受付ける旨を明記した。

募集要項配付開始：平成26年9月中旬

事前相談：本学ホームページ掲出及び募集要項配付開始から随時対応。

実施状況報告書提出：平成27年4月27日（月）

3 飛び入学入試の実施状況について

3 - 1 飛び入学入試の出願及び選考状況

出願受付期間：平成27年2月2日（月）～平成27年2月10日（火）

一次選考日：平成27年2月17日（火）

二次選考日：平成27年3月1日（日）

入学手続締切日：平成27年3月11日（水）

志願者：0人

受験者：0人

合格者：0人

入学者：0人

実施状況報告書提出：平成27年4月27日（月）付、文部科学省高等教育局大学振興課学務課

3 - 2 出願に際して工夫したこと

出願に関する問合せがあった受験生と保護者及び在籍校等関係者へ、入学試験の内容及び入学後の教育・指導体制については過年度実績の状況を交えた詳細な説明を行い、出願を検討する期間を十分に取ることにした。

3 - 3 選考方針について

体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を多数育成することを教育理念とする本学での教育・研究に順応しうる基礎的な学力及び本学の教育・研究分野について学修する意欲を確認するための選考を準備した。

選考方法は、小論文試験と個人面接試験を準備した。

3 - 4 選考方法について（出題内容・出題意図等）

小論文試験においては、体育・スポーツ科学の分野を軸として社会との関わり等を問うものとし、自身の経験を基に学んだ事柄を文章で表現する能力を確認する選考を準備した。

また、面接試験においては、大学入学後の抱負や将来に向けての展開に関する質問を中心に就学意欲を確認することとしていた。

4 入学後の教育内容、指導・サポート体制について

4 - 1 教育内容の特色について

本学の飛び入学制度の特徴は、本報告書「1 飛び入学の導入経緯及び趣旨等について」で述べた通り、国際的に優れた競技スポーツ実績を有する学生を受け入れ、更にその能力を伸長させることを目的としているため、日本を代表する選手としての教養・人格を備えられるよう独自の教育・研究プログラムを創造的に展開している。

4 - 2 指導・サポート体制の特色について

本学は全学部でクラス編成と共に担任教員が割当てられており、学生生活における相談・助言を行う体制及び就学する2つのキャンパスに開設されている学生支援センターにて早期入学生担当職員を割当て、各種の相談・助言を行う体制を整備している。

学修環境については、国際的に優れた競技スポーツ実績を有する学生が多数在籍する本学では、日本代表選手として中央競技団体からオリンピック及び世界選手権等の大会へ長期に亘り海外派遣されることが多々あるため、派遣期間中はメディア(学内の教育支援システム(「n-pass」))を高度に利用し教室等以外の場所で受講・学修・単位修得が可能な環境を整備しており、他のトップアスリート学生同様に授業担当教員との事前打ち合わせにより適切な授業展開を行うこととしている。

また、本学の早期入学者は学友会運動部に所属することになるため本学教職員の当該運動部長及びコーチが競技力向上の指導の他にも就学上の相談・助言を担っていく。更には2つのキャンパスで必要に応じてカウンセラーによる相談対応を行う体制も整備している。

4 - 3 学生の在学状況について

入学年度	入学者数	在学学生数	転学者等
平成26年度	1人	1人	0人
平成27年度	0人	0人	0人

4 - 4 学生の就学状況について

在学学生の学生生活においては、履修状況も良好であり、学内での同級生との交流も年齢の違いはあるものの活発に行われている光景を多々確認している。また、平成27年度入学式においては、在学生代表として新入生への歓迎の辞を述べる大役を務めるなど、学修や競技活動の他にも順調に大学生活を進めている様子である。

履修及び単位修得状況に関しては、第1学年終了時点でも当該年度までの履修申告は良好に行われており、順調に単位修得が進んでいる。

4 - 5 学生の競技活動状況について

在学学生の競技活動においては、入学前の競技レベルを順調に維持、伸長させている。大学入学後出場した国内・国外を問わず数多くの大会で優勝を重ね世界トップレベルで競技活動を展開しており、今後も更なる才能の伸長が期待できる。

5 自己点検・評価の総括及び今後の取り組みについて

5 - 1 飛び入学に関する自己点検・評価を総括するにあたり、制度導入から指導受け入れ体制の状況について評価した結果について

飛び入学入試制度の導入は、大学改革の柱の一つとして平成 24 年度入試から入試制度改革を進める中で平成 26 年度入試から導入された。この入試制度の趣旨は、本学の建学の精神及び社会的使命・目標を実現するために重要なものであり、導入時期については遅きに失した感があったが、導入初年度に受入れた 1 名の学生については、入学後の状況から良好な就学状況にあると判断できることから、学生生活面及び競技面の指導体制は円滑に行われてと評価できる。

これは、導入初年度から実施している入学者の受入体制として、担任教員及び学生支援センターを中心に競技指導の関係者との密な連携を取り、学生の不安を解消し、充実した就学環境の整備及び学生生活をおくれるよう学生とコミュニケーションをとるよう務めている成果であると言える。

更に、各科目の指導教員とのコミュニケーションにおいては、学内ポータルサイトの活用、直接の面談及び遠征先からの電子メールでのやり取りで指導が円滑に進められている。

5 - 2 今後の取り組みについて

次年度の実施に向けての取り組み

平成 26 年度の導入初年度に 1 名入学者を受入れ、良好な受入体制により順調な育成が進められており、初年度の事例を紹介することで志願希望者へ安心感が伝わるよう努めたが、2 年目の今年度は志願者及び入学者の獲得に結びつけることが叶わなかった。今後の取り組みとしては、基本的な受入体制は現状を継承していくが、広報活動において受入実績の状況を詳細に説明するとともに、国の制度として「飛び入学者に対する高等学校の卒業程度認定制度」が創設される見込であることを併せて紹介することで、飛び入学を視野に入れた進学を検討するよう促し、継続的な志願者確保及び入学者の獲得へ繋げていきたい。

以上

6 アドミッションセンター構成員

役 職	氏 名
アドミッションセンター長	横山 順一
事務局	忠政 明彦
	中村 学史
	山中 浩子
	中田 恭央
	広津 義朗
	林 弓実

平成 27 年度アドミッションセンター運営委員会構成員

役 職	区 分	氏 名	
委員長	アドミッションセンター長	横山 順一	
委員	副学長 (教学・学生生活)	袴田 大蔵	
	体育学部	体育学科	辻 昇一
		健康学科	北島 洋美
		武道学科	新里 知佳野
		社会体育学科	馬場 進一郎
	児童スポーツ教育学部	児童スポーツ教育コース	須永 美歌子
		幼児教育保育コース	本多 洋実
	保健医療学部	整復医療学科	中里 浩一
		救急医療学科	成田 和穂
	教養・教職科	後藤 彰	
	学生支援センター長	八木沢 誠	
	学長室長	荻 浩三	
	アドミッションセンター構成員	岡本 孝信	
		石上 秀昭	
		近藤 智靖	
		服部 辰広	
	学長任命の者	藤野 雅博	
		大高 秀二	
		忠政 明彦	
		大海 二郎	